

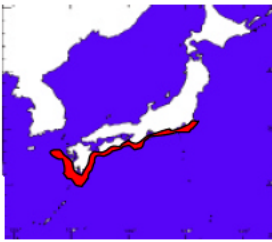
イセエビの不思議

○イセエビの生態

親エビは千葉県から長崎県までの太平洋と東シナ海沿岸の岩礁地帯に生息しており、小型の甲殻類や貝類等を餌にして生活しています。

産卵期は5月から8月で、生み出された卵は雌エビの腹部に付着して保護され、約1ヵ月後に孵化します。卵からふ化した時は、フィロゾーマ幼生と呼ばれる親エビとはまったく似ていない透明でへん平な姿をしています。フィロゾーマ幼生は、プエルルス幼生そして稚エビへと段階的に成長し、ふ化から約4年で親エビになります。6月から10月にかけてプエルルス幼生は沿岸で採集されますが、フィロゾーマ幼生が日本沿岸の海域で採集されることはほとんどなく、フィロゾーマ幼生期の生態は謎とされています。推測されるフィロゾーマ幼生の生態として

- ・ ふ化したフィロゾーマ幼生は黒潮により沖合に輸送される
- ・ 沖合の黒潮反流域や環流域で成長した後、再び黒潮の流れに乗りプエルルス幼生に変態し沿岸域に来遊するというものがあり、この説が有力視されています。つまり、イセエビの幼生は何千キロもの長い旅をしているということです。不思議な生活ですね。



イセエビの分布



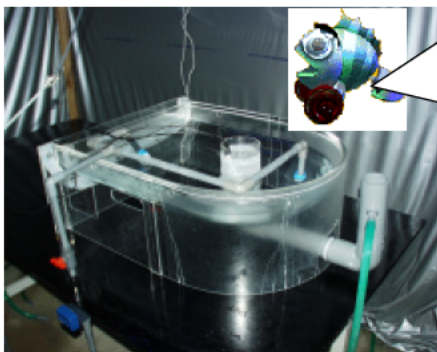
フィロゾーマ幼生



プエルルス幼生

○水産研究部におけるイセエビ研究

イセエビは単価が高く、またあまり移動しないと考えられるため、稚エビを自然の海に放流し大きくしてから漁獲するという栽培漁業の対象種として有望です。日本でのイセエビ幼生飼育研究の歴史は古く、明治時代から行われていましたが、生態が不明なフィロゾーマ幼生を飼育するには餌や飼育環境などの問題が山積みで、非常に困難を伴いました。しかし水産研究部は昭和63年に世界で初めてイセエビの完全飼育に成功しました。その後も稚エビを生産するための研究を継続し、これまでに幼生の成長に適した水温や光環境といった飼育条件を明らかにしました。そして小規模の水槽を用いた数尾から数十尾単位での飼育技術は確立することができました。今後は数百尾の稚エビ生産を行えるような中規模飼育技術の確立を目指し、研究を行って行きたいと考えています。



イセエビ幼生の飼育

約300日間のフィロゾーマ飼育期間中は毎日の飼育容器交換などの飼育管理や重要な餌である新鮮なムラサキガイの生殖腺の確保等がとても大変です。中規模飼育技術の開発にあたっては、労力の低減を図ることも研究課題の一つです。

